

令和5年度 第2回ACP作業部会議事録

日時：令和6年1月24日（水）

午後2時～午後3時30分

場所：安城市役所 第26会議室

会長挨拶

第1回作業部会開催より半年以上経過しているので、振り返りながら進めたい。エンドオブライフ・ケア研修会の振り返りと次年度内容について、わたしノートを使用して初めての感想などを意見交換できればと思う。皆さんよろしくお願ひします。

事務局より

新規委員紹介

特別養護老人ホームひまわり・安城施設看護師の交代あり。自己紹介頂く。

協議事項

1. エンドオブライフ・ケア研修会意見 資料①、①—2、①—3

事務局より資料説明

次年度の研修会の在り方について意見交換

① 参加者について

もう少し増やしてもよいのでは？

ファシリテーターの育成が必要。

今年度ファシリテーターを行った人が次年度の担当に説明しながらファシリテーターを育成することで、各部会でも育成が進むのではないかと募集を30名にしているので申込自体も少ない印象がある。

申込方法は？

各事業所にメール配信した。

FAXなどほかの方法で集めてもよいのでは？メール確認が遅れる事業所もあると思う。

② 場所について

医師会館 2 階会議室だとグループワークを行うのに感染対策を考え 30 名定員が妥当。人数が増えるなら他の会場をあたってもよいと思う。市民会館・更生病院等

③ 開催時期

医師会、講師の都合を鑑み、7 月 29 日とした。他の在宅医療・介護連携推進のための研修会スケジュールもあり、後半になると過密スケジュールになるため 7 月くらいに開催する方が事務局の負担も少ない。

時期は検討する

④ ファシリテーターについて

次年度の担当を希望される方がおられたら挙手を頂きたい。

4 名手上げあり。現時点では対象の方に次年度担当頂く予定とする

2. ACP 住民向け啓発講話者アンケート結果 資料②

保健福祉部会代表より資料に沿って説明

市民より受けた質問は医療に関することが多かった。

修正が多いと見にくくなるが、消してもよいものかななどの質問があった

講話者は高齢者に話す機会が多く、時間がかかったり、難しい内容になると理解が進まないのでもしバナゲームを取り入れたり、和気あいあいとした雰囲気になるようそれぞれが工夫している。

延命治療についての部分など書きにくいページもあり、修正もありかと思う等意見が出た。

対象者の状況を講話者がどの程度把握して話すかなど、状況によって異なる部分が多いと感じた。

*令和 7 年度まで保健福祉部会でまちかど講座を実施する予定。情報収集は継続する。

3. わたしノートについて意見交換 資料③

各部会でわたしノートを使用した意見等について共有する。

会長

資料③は刈谷豊田総合病院で受けた研修で使用した資料。ペアになりポートフォリオを記載するというもの。聴いていく順番が良かったと感じている。しかし、こ

のポートフォリオだけで、意思決定支援が出来るかという点と医療的な内容の記載はないので、情報から物語を作る力が医療介護専門職には必要だと思う。

病院機能評価受審に向けて院内のACP体制について取り組む予定。病院では終末期の意思決定支援を行うことが多い。わたしノートのものもの時にあたる部分をどのように記録に残すか、どう地域と共有するか等考える必要がある。わたしノートに書かれている内容を病院職員がどう解釈し、治療・ケアに活かしていくのが課題。

医師会部会

資料③をみただけで医療的な判断は難しい。病院と地域をつなぐ上で、共通のツールを使用するのもおこなわれている環境・状況が異なり難しく、それぞれでACPに関する情報用紙を作成している現状がある。各種ツールを使いながら情報共有していく必要がある。医師会としては考えるきっかけとして利用している。

病院部会

- 情報を聴く力が必要。療養生活の中で本人の生活歴を踏まえ、心地よい環境整備等につなげたい。どうしてそう思うのかを考え、人生の最終段階の治療の選択をするうえで活かしていきたい。
- 病院でわたしノートの活用をするのは難しいと思うが、看護部でリーダー級職員に対し、1症例に記載するよう研修を行った。告知の部分を本人に聞くことが難しい。(疾患によっては聞きにくい。家族に話されている等)

訪問看護ネットワーク部会

市民向けの勉強会を行った。わたしノートの記載の仕方について看護師が説明する機会は珍しく、興味深いとの感想を頂いた。

延命治療のページは記入が難しいため、検討の余地がある。

ケアマネット部会

- ケアプラン立案時のアセスメントに活用している。新規利用者に対しコミュニケーションのきっかけとしてノートを渡すこともある。利用者の中には年末年始など親戚が集まる機会にノートを書いてみるという試みをされている方もいた。
- ノートの修正については記載したものは消さずに残して欲しいので、ページを追加して、そこに記載する方法を取りたい。活用については新規利用者や担当者会議の時に紹介している。

ヘルパーネット部会

進められていない。ノートを渡した方の確認もできていない。利用者からの質問もない。ヘルパーとしてどのように関わるべきか分からない現状。

保健福祉部会

- 進められていない。比較的健康的な高齢者を対象にサロン活動を行っているが、わたしノートでもしもの時の話をする際、楽しみの場所との認識の中では話しくさを感じてしまう。
- 主任ケアマネの会でICF研修を行い、ケアプラン立案時アセスメントに活用した。有意義な研修会となった。

施設部会

初参加のため発言なし。

各部会で様々な意見がでた。事務局でも内容を検討していきたい。次年度も意見交換を進める。

4. 次年度開催予定 資料④

出席者選出について資料④の内容に対する質問

特に意見なし。

文書ができ次第、参加者にメール等にて送信。期日までに事務局まで連絡頂く。

5. その他

広報あんじょう 11月号掲載記事紹介 資料⑤参照